たんぽぽおじさんの クロアチア訪問記

ALFA Theatre “THE JOURNEY OF THE GOOD HANS BÖHM THROUGH EUROPE（ハンス・ベームのヨーロッパ遍歴）” チェコ

Anna Guzik, Anna Zadęcka-Zięba, Fondation－Oh Gustav! “UGLY DUCKLING（みにくいアヒルの子）” ポーランド

Zaches Theatre “CINDERELLA（シンデレラ）” イタリア

Zero en Conducta “THE MECHANICS OF THE SOUL, EH MAN HÉ” スペイン

Ljubljana Puppet Theatre “THUMBELINA（親指姫）” スロベニア

クロアチアの首都・ザグレブで1968年から開催されている（今年は56回目）、世界でも最も古くからの国際人形劇フェスティバルMEĐUNARODNI FESTIVAL KAZALIŠTA LUTAKA – PIFに行ってきました。Program managerのLjubica Suturovićさんがいろいろと便宜を図ってくださって、楽しく観ることができました。面白かった作品をいくつか紹介します。

ポーランドのAnna Guzik, Anna Zadęcka-Zięba, Fondation – Oh Gustav! の“UGLY DUCKLING（みにくいアヒルの子）”。台詞は全くなく、ガアガア言っているだけなのですが、ちゃんと心情も伝わってくるノンバーバル（非言語コミュニケーション）の上手い作り。役者が達者で、舞台装置も工夫されていました。

『三銃士』や『ゾロ』で日本でも知られるチェコALFA Theatreの“THE JOURNEY OF THE GOOD HANS BÖHM THROUGH EUROPE（ハンス・ベームのヨーロッパ遍歴）”は、製材所（舞台セットもそういう感じ）の端切れの木で作ったような、頭、胴体、両手、両足（強力な磁石で繋がっているが、もちろん切り離して遣うこともできる）という極めてシンプルな人形がその遣い手とともに表情豊かに力強く演じます。このフェスティバルで、最優秀作品、部門賞を含め、4冠を獲得しました。

スロベニアLjubljana Puppet Theatreの“THUMBELINA（親指姫）”は、その場で自分の声をサンプラーで拾ってそれを繰り返して多重再生させて、それを伴奏に歌うという「一人VOCALIES」がかっこいい。人形は基本立ち絵（時々丸モノ）で、背景などの美術も立体絵本みたいな統一感のあるお洒落な感じで、役者の表情もチャーミング。完成度の高い一人芝居でした。

イタリアZaches Theatreの“CINDERELLA（シンデレラ）”は凄かったです。面白い。影絵の技法とか、人形と人間の役者の共演とかダンスとかあって、12時の鐘が鳴り、王宮からシンデレラが飛び出してきて、片方の靴を舞台袖に放り投げ、片方の靴を残して退場。ここで、芝居はおしまい。「シンデレラは王子に見つけられない――過去の自分と決別して自分の道を切り開いていく」というのが私の解釈ですが、全部がドラマチックでかっこいい。民話昔話だって、いくらでもやりようがあるのだとあらためて実感しました。日本の皆さんにもぜひ観てほしい作品。

スペインZero en Conductaの“THE MECHANICS OF THE SOUL, EH MAN HÉ（魂の仕組み、「EH MAN HÉ」の部分は訳せない）”は、いろいろな人に勧められたのですが、それも納得。最大5人で1体の人形を遣います。恐ろしくリアルに動くのですが、もちろん、人形は遣い手無しでは意味のない存在。観ているうちに、人形と人間の境目が曖昧になり、どっちがどっちに意思を与えているのか解らなくなってしまったりします。これは人形遣いに与えられた問いであり、哲学なのだと思いました。

ほかにも、特にペイピーシアターの範疇の作品には、面白いものがいくつもありました。PIFのプログラムには、上演以外にも様々な展示会、子どもばかりでなく、（子どもたちに人形劇・人形作りを指導する）大人・保育者向けの様々なワークショップも用意されていました。ほんとに素敵なフェスティバルで、行ってみて良かったです。

愛知人形劇センター理事長　たかはしいちげん（人形劇団わたぐも）

とらまる人形劇カーニバル2023

Report

10月27日、人形劇場とらまる座にて公演された『夢の検閲官』（原作：筒井康隆、脚本・演出：くすのき燕、人形・美術：吉澤亜由美）

『夢の検閲官』が海を越え、四国・香川県でも好評

愛知人形劇センターが2022年12月にAFF2（ART for the future!2）として企画制作した『夢の検閲官』が、香川県東かがわ市で開催された「とらまる人形劇カーニバル2023」前夜祭にて上演されました。このカーニバルは、東かがわ市制&とらまるバベットランド設立20周年記念行事として開催された人形劇フェスティバル。10月27日から29日かけて東かがわ市ところまる公園内にて、全国から集まったプロ、アマ28人形劇団の上演と地元団体のレクリエーション、飲食バザー等々の催し物が開かれました。『夢の検閲官』は筒井康隆のシュールな小説世界を人形劇化したコアな作品ですが、小学生の子どもからカーニバルに参加する人形劇団のメンバーまで、多彩な観客の皆さんに興味深く楽しんでいただきました。

この作品はキャストスケジュールの関係で今後1年ほど公演予定はありませんが、将来的には全国を巡回出来るような企画として、大切に上演していきたいと考えています。

おくやみ　愛知人形劇センター前理事長の木村繁さん逝去

P新人賞の最終選考では毎回、笑顔で司会を務めてくださいました。

愛知人形劇センター創立当初から運営に関わり、2015年の法人化の際には多大なご尽力をいただいた木村繁さんが1月27日におしくなりになりました。

木村さんは、人形劇団むすび座にて作・演出を手掛けるだけでなく、現代劇から人形浄瑠璃まで、その活動は舞台芸術全般に及んでいました。愛知人形劇センターでは、ひまわり脚本賞の創設やオープンプロジェクトパフォーマンスカレッジの開催、またP新人賞設立など新機軸の事業を次々と立ち上げ、周年事業としては「文楽人形オペラおさん伊八」「小町曼荼羅」の作・演出を手掛けるなど多大な功績を残し、現在の当センター事業の礎を築いたと言っても過言ではありません。理事長退任後は、「ラストフリーダカンパニーとともに「プッペンテロル」を名のり、常磐津と現代美術の融合作品を発表し続けていました。愛知人形劇センターからは感謝の言葉しかありません。

ここに故人を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。安らかにお眠りください。

特定非営利活動法人
愛知人形劇センター
〒460-0002　名古屋市中区丸の内3-22-21
損保ジャパン名古屋ビル8F
TEL 052-212-7229　FAX 052-212-7309
https://aichi-puppet.net/　MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター ひまわりホール情報誌 あっぷ
過巻324　2024年冬号
発　行：特定非営利活動法人　愛知人形劇センター
発行人：高橋一元
編集人：中康彦
デザイン：江利山浩二（KINGS ROAD）
編　集：小島祐未子（家根の編集舎）

©愛知人形劇センター　※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

Aichi Puppetry Center
あっぷ
ひまわりホールから発信するシアター情報誌
2024 WINTER
VOL.324
https://aichi-puppet.net/

4年ぶりに子どもたちの歓声が帰ってきた！

ひまわりホール子どもアートフェスティバル2023